

第64回 新技術活用等現場研修会の開催報告

一般社団法人日本建設機械施工協会中国支部では、会員の知識の向上・技術の研鑽を図るため、新技術活用等現場研修会を毎年実施しています。今年度は国土交通省山口河川国道事務所が事業が進められている「国道2号栄橋架替え工事現場」と、中国電力の「柳井火力発電所」を見学しました。

当日は台風24号が九州に接近中で天候が心配されましたが、雨・風の影響もなく無事現場研修会を終えることができました。また、研修会では、山口河川国道事務所、中国電力柳井発電所ならびに工事施工者の皆様には大変丁寧なご案内をいただき、誠にありがとうございました。

○日時：平成25年10月8日（火） 9：30～16：00

○参加者：13名

○研修現場

1) 国道2号栄橋架替え工事(国土交通省山口河川国道事務所)

栄橋は、広島県と山口県の県境を流れる小瀬川に架かる8径間の鉄筋コンクリートゲルバー桁橋（橋長168m）で、昭和17年3月（1942年）に完成したものです。栄橋を利用する自動車交通は約3万台/日で、完成から70年を経過し老朽化が著しいこと等から、平成21年度より架替え工事が進められています。

現在の進捗状況は、下流側に迂回路橋が完成し、旧橋の上部工の撤去工事が進められています。また、旧橋撤去後に新しく建設される橋は、鋼4径間連続非合成桁橋（橋長173m、2車線）で、平成28年度に完成することとなっています。



工事概要の説明



コンクリート桁の撤去



コンクリート桁の切断

2) 柳井火力発電所(中国電力)

柳井火力発電所は中国地方最大の発電所で、敷地面積約50万平方メートル、出力は140万kw/日です。燃料には発熱量が高く環境にやさしい液化天然ガス（LNG）が利用されており、オーストラリア・カタール・オマーンから運ばれて来ています。発電方式は、発電効率の高い「コンバインドサイクル」という新しい技術が採用され、発電所出力の2/3をガスタービンで発電し、その排熱を利用してさらに残り1/3を蒸気タービンで発電するというもので、10個の発電機があります。

また、場内にある野球場・テニスコート・公園は地域に開放されており、年間約2万人が利用しているとのことでした。



(写真)

左：液化天然ガス（LNG）
運搬船の模型

右：ズラリと並ぶ発電機群
（きれいで静かでした）

